

My dear 南信

飯田や駒ヶ根、伊那などを総称して南信と呼ぶが、このあたりは有名な温泉とカリゾート地があるわけではないので、旅行先の対象としては地味なイメージがある。

たまたま私は飯田に親戚があって、ドライブがてら遊びに行っちはあちこち足を伸ばしているうちに、この地方にも雄大で変化に富んだ風景や心惹かれる場所、地元で採れたおいしい食べものなどがいろいろあることがわかってきた。何より観光地化されていない純朴な雰囲気がいたるところ残っているのが貴重である。今回は、そんな南信の楽しみ方をぜひ知っていただきたいと考え、私の実感を頼りにいくつかピックアップしてみた。

さて、近年南信でもっとも注目を集めたところといえば、「日本の里100選」にも選ばれた「下栗の里」だろう。飯田インターからクルマで2時間弱もかかる山奥深いところにある集落だが、ここは訪れる価値のあるところだ。雑誌などでも「天空の里」などと一時期よく紹介されたが、その名のごとく峻険な山の急斜面に20～30戸の家がへばりつくようにして建っている。その急斜面はそのまま一気に、おそらくは何百メートルも、谷底まで降りているのだから、この集落のある場所は半端ではない。ちょっとほかに類を見ない日本の風景とあっていいだろう。ただし、こうした眺めは、集落から20分ほど歩いたところにあるビューポイントまで足を運ばなくては見ることはできない。

なぜこんな場所に家を、とってしまうが、一説には平家落人の伝説もあるようだ。しかし、真偽のほどはわからない。ただ、どこか人目を避けるようにしてこの場所に建てた、という印象はなくもない。

集落以外には食堂兼みやげもの屋が1軒あって、地元で採れたそばや田楽などを食べさせる。素材の味がよくひき立った素朴な味わいだ。ひんやりした山の冷気を感じながら食べていると、山奥へ来たな、という気持ちになる。

飯田への帰路は、行きとは別ルートの上り高原を通る道を選ぶのがいいだろう。白樺林のなかを走る気持ちのいい道で、すれ違うクルマもほとんどない。途中眺めのいいところに3階建ての山小

屋風ホテルがあったので、コーヒーでもと思い玄関先まで行ったが残念ながら閉じていた。休業中のようだった。ハイシーズンしか営業しないのかも知れない。仕方なく駐車場で白樺林や南アルプスの山なみを見ながらしばし休んだ。あたりには人っ子ひとりおらず、ホテル以外人家もなく、とても静かだった。

ところで下栗の里のあたりでは蕎麦を栽培しているが、それで打った蕎麦を「しらびそ蕎麦」と銘打って食べさせる店が駒ヶ根にある。「丸富」という蕎麦屋だ。

以前は飯田市内で営業していたが、15年ほど前に、駒ヶ根インター近くの林のなかに、山の分教場のような店を建てて移転してきた。この料理は、下栗産の蕎麦粉や駒ヶ根の自家栽培の蕎麦粉を使ったり、近くで採れた山菜をアレンジしたり、近隣から仕入れた地野菜や鶏、豆腐などを用いるなど、地元とのつながりを重視している。くだんの「しらびそ蕎麦」はなめらかな舌触りの繊細な味の蕎麦だが、最近訪れたときには、昨年下栗は不作だったので「しらびそ蕎麦」は予約制にしたい、とのことだった。有名な店になったが、いつ来ても変わらない味が保たれているのはうれしいことだ。

駒ヶ根ではもうひとつ、いつも立ち寄るところがある。「丸富」からクルマで数分のところにある教会である。蕎麦を食べたあと散策をしていて偶然林のなかに見つけた。最初に尋ねたときは日曜日で、午後の結婚式の支度中であつたらしいのだが、牧師さんは親切に木造のチャペルや別棟の同じく木造の集会室などを案内してくださった。集会室を使って披露宴を行う、ということだった。案内されながら思ったのだが、ここは私が今まで見たなかでもっとも小さな教会だと思う。チャペルは50～60人も座れば満杯になりそうだし、チャペルの前の芝生も、私の足なら端から端まで10歩くらいで歩けそうだ。しかし、芝生の周囲には花壇が作られ色とりどりの花がたくさん植えられている。枝垂れの桜も庭の一角に1本あって、春の花嫁は桜の花びらのシャワーを浴びることができるかもしれない。チャペルのすぐ横には清流が流れており、その向こうには赤松林が広がっている。小さい教会だけれど、目を楽しませ心を和ませるものであふれている。南信で私が大切に思っている場所のひとつだ。

日帰りのときは大体駒ヶ根まで行ってお昼を食べて飯田へと向かうことが多いのだが、そのルート

としては中央高速のほかに山裾を走る一般道（県道15号線）がある。右手に中央アルプス、左手に天竜川と南アルプスを望みながら快適なドライブを楽しむことができる。私の好きな道だ。何か所か溪谷を越える橋があって、そこからは駒ヶ岳などの山々が間近に見える。途中には、「信州里の菓工房」という和菓子、洋菓子を幅広く取りそろえた、カフェ併設の菓子店があって、私はよくここで一休みする。テラスがあって、中央アルプスから降りてくる風に吹かれながらコーヒーを飲むことができるのだ。

さて、飯田市内で訪ねたいのは本町にある川本喜八郎人形美術館だ。川本はNHKの人形劇「三国志」などで知られるが、飯田市で毎年開かれている人形劇カーニバルに、1990年この「三国志」を持って参加した。飯田を訪れたのはその時が初めてだった。飯田はもともと人形芝居の盛んなところで古いものは300年余りの歴史を持っている。川本はそういう飯田の人たちの人形芝居にかける情熱を知り、感銘をうけ、飯田こそ人形にとってもっともふさわしい場所と、テレビで使用した「三国志」や「平家物語」などの人形たちを寄贈した。館内の展示はそれらの人形が中心となっている。豪華で手の込んだ衣装や、登場人物たちの個性や性格を表現した顔の表情は一見に値するものだ。飯田で人形劇が盛んなことや、こうしたユニークな美術館があることが広く知られていないのは残念なことだ

あと飯田では、必ず立ち寄る味噌屋がある。高羽町の「本家田中こうじ店」だ。宣伝をするつもりはないのだが、時間をかけて丁寧な作り方をしており、毎日のように使っても飽きのこない味だ。

南信には、天竜峡や水窪（みさくぼ）など長野、静岡、愛知の3県が接するあたりとか、大鹿村などまだまだ足を伸ばしたいところがある。どちらもほとんど観光の対象にはなっていないけれど、おもしろいところやうまいもの、古くから伝わる祭りがあるような気がする。そういうところを訪ねて、これからも自分なりの旅の楽しみを見つけていきたいと思う。

※「下栗の里」と駒ヶ根とは、同じ日に行ったわけではない。名古屋からの一日の行程としては強行軍となろう。